

都道府県・ 指定都市番号	27	都道府県・ 指定都市名	大阪府	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究 ○協働的に学び合うことで、探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）が「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導計画及び指導方法の研究				
ふりがな 学校名（生徒数）	おおさかふりつひがしもずこうとうがっこう 大阪府立東百舌鳥高等学校（863人）				
所在地（電話番号）	〒599-8234 大阪府堺市中区土塔町 2377-5 (072-235-3781)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	https://www.osaka-c.ed.jp/blog/higashimozu/hgq/				
研究のキーワード	「探究学習」「主体性」「協調性」「マインドセット」「形成的評価」				
研究結果のポイント	○ 探究のプロセスを繰り返し設定することで、主体的・対話的で深い学びの実現に繋がった。 ○ 「関連単元配列表」を活用することで、組織的かつ計画的な教育活動の質の向上を図り、カリキュラムマネジメントの充実に繋がった。 ○ 「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」結果から、協働して「探究学習」に取り組むことで「自己有用感」「主体性」が高まったことが分かる。今後とも継続して生徒一人一人の多様な学びを形成的に評価できるよう研究・開発を進めていく。 ● 新教育課程に基づいた、東百舌鳥高校の3つのポリシーが意識されるようになり、カリキュラムマップの作成、新教育課程編成へと取組が進んだ。更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成を目指していくこと、成果の公表を行うことが求められる。				

1 研究主題等

(1) 研究主題

「学びに向かう探究学習」の研究・開発及び評価
 ～ピア・マインドセットをもち、SDGsに取り組む探究学習～

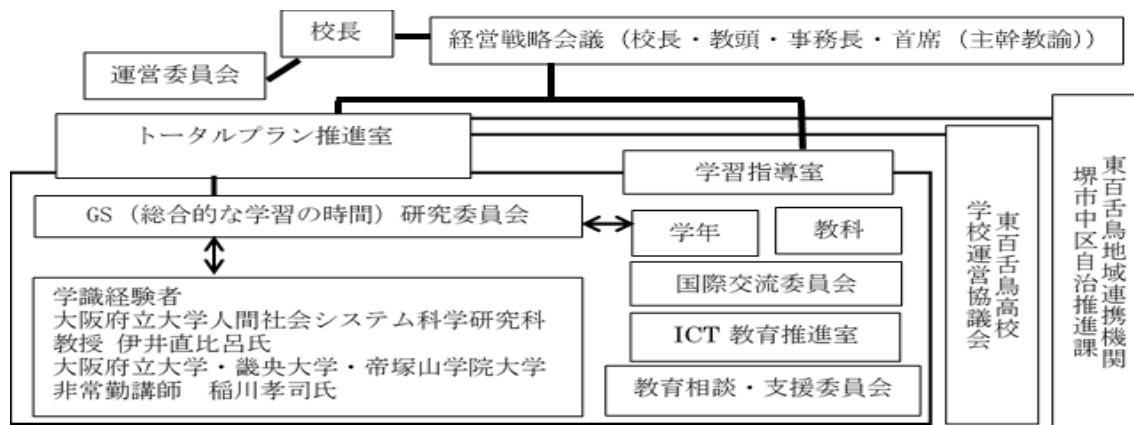
(2) 研究主題設定の理由

本校は、生徒の学力層が大阪府のボリュームゾーンに位置する、多様な進路を保障してきた公立の普通科設置校である。「ピア・サポート活動を通して互いに支え励ましながら成長できる生徒」、「ICTを活用し自分の言葉で考えを表現できる生徒」、「地域に信頼される社会的貢献ができる生徒」の育成を目指してきた。そのような中、グローバル化が進展し、社会や生活が大きく変わっていく「超スマート社会（Society5.0）」を生徒たちが自律的に生き抜くためには、「知識の習得のみにとらわれない学びの実現」や「キャリア発達を促す進路実現」を重視する必要がある。

「学びに向かう探究学習」とは、国連が採択した「持続可能な開発目標」であるSDGsを基に、生徒が興味のある分野を深く調べ、仮説を立て、検証し、意見としてまとめて表現する学習活動のことをさす。これらの学びを通じて、SDGsを自分の課題として捉え、目標達成のために他者と協働し、自己の進路をキャリアとして捉えられる生徒集団の育成を目指すことを研究主題として設定した。

(3) 研究体制

トータルプラン推進室が「総合的な学習の時間（GS）」の全体計画を立案し、それに基づいて、学識経験者の意見も取り入れながら、GS研究委員会で実施計画を作成、HR担任及び副担任等が分担・協力して実践を行う。また、トータルプラン推進室が「教科連携プログラム」、形成的評価法の研究開発、教員研修、成果の公表を行う。



(4) 2年間の主な取組

平成30年度	4月	研究計画・年間指導計画の立案・共有（教職員全員）
	5～2月	「ピア・マインドセットの醸成」の実施（グループワーク，協議・発表）
	7～11月	「SDGsに基づいた関心領域の発見」・「教科連携プログラム」の実施 「オリンピックの時どうする？海外からのお客さんが困ることを解決しよう」
	11・12月	主体性評価教員研修「理論編」「実践編」
	1月	大阪府立大学の留学生との交流会
	3月	「探究的な学び」教員研修，1年間の反省と次年度研究計画の作成（教職員全員）
令和元年度	4月	全体計画・研究計画・年間指導計画の立案・共有（教職員全員） さかい探究学習 ～自己の理解から堺市への提案へ～
	5～6月	堺市まちづくり出前講座，堺市に提案！
	8～9月	北海道探究学習 ～北海道の農村からSDGsに迫る～ NPO法人「食の絆を育む会」理事長による事前学習・問題提起 北海道修学旅行ファームステイでの聞き取り
	10月	北海道の農村への提案！
	11月	SDGs探究学習 ～ピア・マインドセットをもち，SDGsに取り組む探究学習～
	1月	中間発表会・クラス発表会
	2月	公開全体発表会（ポスターセッション）・振り返り
	3月	研究指定校事業2年間の反省と今後の取組について（教職員全員）

2 研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究内容

協働的に学び合うことで，探究のプロセス（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）を充実させ，「主体的・対話的で深い学び」を実現する指導計画及び指導方法を策定するために，平成30年度の成果と課題をふまえ，以下の3つを研究内容とした。

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現する探究過程の充実
 1. さかい探究学習 「堺市に提案！」
 2. 北海道探究学習 「北海道の農村からSDGsに迫る ～北海道の農村への提案！」
 3. SDGs探究学習 「ピア・マインドセットをもち，SDGsに取り組む探究学習！」
- ② 関連単元配列表の活用とカリキュラムマネジメントの充実
 1. 関連単元配列表（Competency-based）の作成と活用
 2. 3つのポリシーの意識化とカリキュラムマネジメントの充実
- ③ 形成的評価法の研究・開発
 1. 「東百舌鳥Style マインドセットアンケート」の実施・分析
 2. 探究学習における主体性評価

(2) 具体的な研究活動

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現する探究過程の充実

探究の対象が，地域（堺）→日本（北海道）→世界（SDGs）のように広がるように設定するとともに，生徒一人一人が自己の在り方生き方や学ぶ意味を考えながら課題を設定することを重視した。さらに，協働で探究に取り組むことで，ピア・マインドセットを育みながら，各教科・科目等で身

に付けた資質・能力等を発揮し、理解の質を高めることを目指した。

1. さかい探究学習「堺市に提案！」

地元堺市の抱える問題点から、グループで興味・関心のある課題を見付け、その解決に向けた自分たちなりのアプローチを考察した。

- ① 堺市生涯学習「まちづくり出前講座」を活用し、4つの専門コースに関連する堺市の問題を捉える（2年次より「文系アドバンス」「文系キャリア」「理系」「看護医療」コースを選択）。
- ② 専門コースに関連させた「関心領域」から、堺市の問題状況の解決に向けた自分たちなりのアプローチを考察した。
- ③ ワールドカフェ方式で堺市への提案を発表し、ルーブリックで相互評価した。

2. 北海道探究学習「北海道の農村からSDGsに迫る～北海道の農村への提案！」

修学旅行で訪れる北海道の抱える問題点から、グループで、興味・関心のある課題を見付け、その解決に向けた自分たちなりのアプローチを考察した。

- ① NPO法人「食の絆を育む会」理事長より、北海道の食と環境に関する高校生への問題提起を聞き、修学旅行を通して学ぶべき北海道の農業の抱える問題を捉え、その解決策をより深く探究し、北海道の農村への提案としてまとめた。
- ② 修学旅行のファームステイ先で、農家に取材を行い、それらを基に提案のブラッシュアップを図った。
- ③ ワールドカフェ方式で、北海道の農村への提案を発表し、ルーブリックで相互評価した。
- ④ ファームステイした農家に提案を送付し、提案に対する意見を伺った。

3. SDGs探究学習「ピア・マインドセットをもち、SDGsに取り組む探究学習！」

専門コースに関連させた「関心領域」からSDGsを自らの課題として捉え、自己の在り方生き方を考えながら他者と協働し、その解決に向けた自分たちなりのアプローチを考察した。その際、専門コースで学ぶ教科・科目の専門性を活かし、探究の質を高めることに留意した。

- ① JICAの講演会で、海外における問題状況について理解した。
- ② グループで、SDGsにおける「理想と現実」のギャップから見えてくる疑問から課題を設定し、情報収集することで、専門コースにおける進路や自己の在り方生き方を考えながら、目標達成のための仮説を設定した。
- ③ テーマに基づく体験活動（フィールドワーク）や講演会等を通じて、仮説を検証した。（特別養護老人ホーム、子育てひろば、大学留学生等、地域の人と資源の適切な活用）
- ④ 仮説検証のための情報分析を行い、仮説に対する結論・判断・提言等を成果物としてまとめ、ポスターセッション形式でプレゼンテーションを行った。全体発表会は全国に発信した。
- ⑤ ふりかえりとして、SDGsと自分の進路・キャリアとの関わりについてまとめた。

2 関連単元配列表の活用とカリキュラムマネジメントの充実

各教科・科目等で身に付ける資質・能力について十分に把握し、総合的な学習（探究）の時間との関連を図るために「関連単元配列表」を作成した。「関連単元配列表」を活用することで、教育課程全体を見渡したカリキュラムマネジメントを充実させるとともに、東百舌鳥高校の3つのポリシー策定にも繋がった。

1. 関連単元配列表（Competency-based）の作成と活用

育成を目指す資質・能力で整理した「関連単元配列表」を作成したことで、総合的な探究の時間と各教科・科目等で育成される資質・能力の関連性を、教育課程のなかで俯瞰的に捉え、新教育課程に基づいた、組織的かつ計画的な教育活動の質の向上を図った。

2. 3つのポリシーの意識化とカリキュラムマネジメントの充実

各教科・コースにおける「関連単元配列表」（Competency-based）作成の過程で、ディプロマポリシー（学校の教育目標・めざす学校像）、カリキュラムポリシー（各教科・専門コースで育成を目指す資質・能力及びカリキュラム編成・実施の方針）、アドミッションポリシー（求める生徒像）の3つが意識されるようになり、学習効果の最大化を図る新教育課程編成へと取組が進んでいる。

3 形成的評価法の研究・開発

1. 「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」の実施・分析

「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」（4/23・10/21・2/6）により、「生徒の変容」を

分析した（有意水準 5 % の両側検定（対応のある t 検定）で有意）。

質問項目	1年次探究学習		2年次探究学習	
	前	後	4月	10月
自分は人のために役立つことができる人間だと思う	34%	44%	45%	45%
いつも何か目標をもって、それに挑戦しながら生きていきたい	63%	69%	71%	73%
将来は世界の様々な問題の解決に役立つ人材になり、自国と世界の発展に貢献したい	47%	52%	51%	54%
SDGsの目標を達成するために、自分に何ができるか考え、努力していきたい	9%	23%	39%	36%

アンケート結果から、協働して「探究学習」に取り組むことで「自己有用感」「主体性」が高まっていることが分かる。引き続き、検証を進めていきたい。

また、11月から始まる「SDGs 探究学習」では、専門コースに関連させた「関心領域」から、SDGsを自らの課題として捉え、目標達成のために他者と協働し、自己の進路をキャリアとして捉えられるよう探究の質を上げた取組を推進する。

2. 探究学習における主体性評価

各単元で実施している振り返りで、「自らの学びの意味付け」「価値付けによる自覚化」「他者との共有化」を促し、振り返りを通して、自分の人生や将来について考え、学んだことを自己のキャリア形成の方向性と関連付けるようにしている。

関西学院大学高等教育推進センター准教授 時任 隼平氏に、探究学習における主体性評価（「探究学習」を行ったことにより学ぶ意欲がどう伸びて、学力がどう培われていくのか、また、それを実証するためのエビデンスとして、生徒の変容をどう評価していくのか）に関する指導・助言で受け、研究を進めている。その際、「協調学習」との関連性についても研究を深めている。

3 研究の成果と課題（○成果●課題）

- 協働で探究に取り組む学習過程を設定し、ピア・マインドセットを育みながら、生徒一人一人が自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開したことで、各教科・科目等で身に付けた資質・能力等を発揮し、理解の質を高めることに繋がった。
- 「関連単元配列表」を活用した総合的な学習（探究）の時間と各教科・科目等の相関を意識したことで、学校全体で育てたい資質・能力に対応し、組織的かつ計画的な教育活動の質の向上に向けたカリキュラム・マネジメントが実現した。加えて、新教育課程に基づいた東百舌鳥高校の3つのポリシーが意識されるようになり、カリキュラムマップの作成、新教育課程編成へと取組が進んだ。
- 「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」の分析結果から、協働して「探究学習」に取り組むことで「自己有用感」「主体性」が高まったことが明らかになった。
- 「関連単元配列表」を活用し、総合的な学習（探究）の時間と各教科・科目等で育成される資質・能力の関連性を、教育課程のなかで俯瞰的に捉えることで、各教科・科目等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせることが必要である。加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせ、働かせながら、自ら問いを見だし探究する力を育成することが求められる。
- 「関連単元配列表」「カリキュラムマップ」「3つのポリシー」を有効活用し、更なるカリキュラムマネジメントの充実と新教育課程編成を目指していくこと、その成果の公表を行うことが求められる。
- 「探究学習」における更なる形成的評価方法の研究・開発に取り組み、今後とも継続して生徒一人一人の多様な学びを形成的に評価できるよう研究・開発を進めていく必要がある。

4 今後の取組

「学びに向かう探究学習」の取組で、協働で探究に取り組む学習過程を設定し、ピア・マインドセットを育みながら、主体的・対話的で深い学びが実現すること、「自己有用感」「主体性」が高まっていくことが、単元ごとの振り返り、成果発表会、「東百舌鳥 Style マインドセットアンケート」結果から明らかになった。この2年間の成果と課題を踏まえ、「学びに向かう探究学習」の実践を積み重ねていき、その成果を様々な機会でご発表・発信していく。